〔箋注倭名類聚抄一田野〕所引小雅、皇皇者華傳文、釋名原元也、如元氣廣大也、水經汾注引春秋說題辭云、高平曰大原、原端也、平而有度也、按說文、邍高平之野、人所登、又云、厵水泉本也、原篆文、以泉、二字不同、後人借原爲邍野字、故泉原字從水作源、以避之、邍字遂廢、新井氏曰、波良廣大之稱、開訓波留岐、遼遠訓波流加、皆同語、故有天原海原之稱、

〔伊呂波字類抄地儀〕原ハラ、毛詩云高平曰原、平同

〔和漢三才圖會五十六山〕原音源　和名八良

說文云、高平曰原、人所登也、故从厂、厂者山石之岩、人可居者、

〔東雅二地輿〕原ハラ　ハラとは開也、古語にハラシといひしは、開く事をいひしかば、日本紀に開の字讀てハラシとは云ひし也、遼遠をハルカといふも、開け遠きの義也、今も筑紫の方言に、原をばハルといふなり、古に又讀てアラともいひけり、アラとはハラの轉語にして、卽是開也、又古語に天之原、海原、河原など云ひし類は、ハラとは邊也、日本紀に、川上の字をカハラと讀しが如きこれなり、また松原、檜原、杉原など云ひし類は、ハラとは林也、日本紀に竹林の字をタカハラと讀み、松林の字を讀てマツハラといひし、並にこれなり、

〔倭訓栞前編二十四波〕はら　原は、日本紀に開をはらくとよめる意也、筑紫人ははるといふともいへり、高天原、蒼海原、豐葦原など、皆廣平の義をいへる也、萬葉集に國原とも見ゆ、說文に、原、高平曰原、人所登也と見ゆ、日本紀に林をもよめり、竹はら、松はら、檜はらなどいふ是也といへり、

〔八雲御抄三上地儀〕原

松　柳　檜　杉　木　竹　桑　野　玄の　さゝ　はゝそ　あさぢ　石　河　國　うな　萩

葛まくず　すが　あし　かや　玄ば　ち　ふし　かし万　おきのやき原　みちのべの

いつ玄ばはら万　こしのすが原万